

「面白いから、楽しいからやっている」「直売所は地域を拓く」

農政建設常任委員会が「6次産業化に取り組む事業者」と意見交換

農政建設常任委員会と市内で「6次産業化に取り組む事業者」との意見交換会が15日、行われました。事業者として安塚区のTさんなど10人の方が出席してくださいました。私も傍聴させていただきました。

会では農政建設常任委員が自己紹介した後、参加した事業者のみなさんが、それぞれ農畜産物の生産に携わっている状況、漬物や乾燥野菜などの加工と販売などについて語りました。

このなかでは、「米の価格は半分になり、豚などの家畜は駆逐された。ふと気付くと、カラスの鳴き声しか聞こえない」「お母さんたちがとても元気で、楽しく仕事をしている。農村の魅力が失われていくことを一番心配している」「70を過ぎて、先が見えないという不安がある」「6次産業化は魔法の言葉だ。農家のせがれが農業を継げないのが一番の問題だ」などの声が出ました。

続いて、これらの発言を頭に入れた中で、意見交換が行われました。

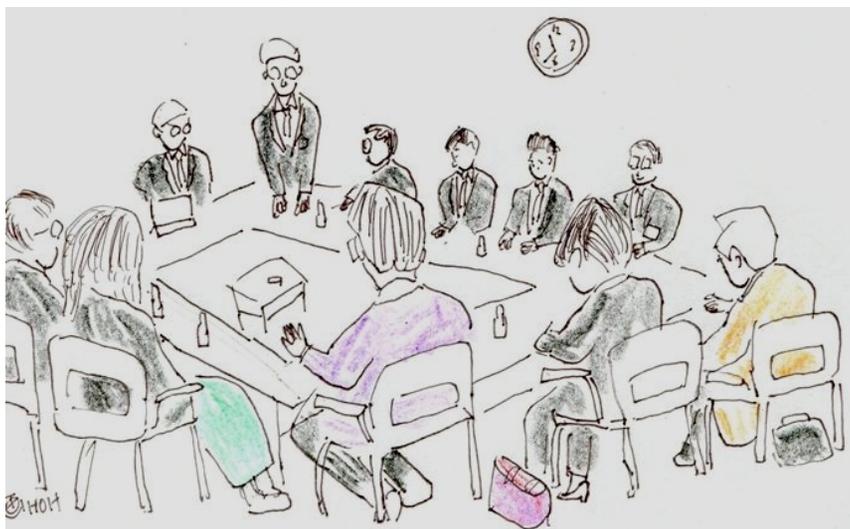
私が注目したことのひとつは、「農業における楽しみ」を口にする人が何人もいたことです。「朝3時半に起きて働いているが、面白いから、楽しいからやっている」「こんなに割の合わない職業はない。でも、普通にやればいいのか。楽しくやればいいのか」といった発言が続きました。私は、猛烈に忙しい中でも、農場だよりを出して、イラストも描いている友人の取組などを思

い出しました。

2つ目は「農畜産物の直売所」の力についてです。浦川原区のMさんが、「売ることによって6次化になる。ところがメイドイン上越ひとつとってみても売場所が少ない」と発言したことを皮切りに、「直売所は地域を拓

く。ものすごくいい働きをしている」「6次化したものはまず地元で売った方がいい。地元でまず売る、ファンをつくる、循環させることが大切だ。直売所の数も増やしてほしいし、ちょっと置くところもほしい」「東京で上越のものを買うことができるのはどこか見えないという声もある。考えてほしい」などの声が上がりました。市内の直売所を改めて見てみたい、販売者の声をもっと聴きたいと思いました。

3つ目は、「支援はきめ細かくということ」です。吉川区のSさんは、「加工をやっていると、表示などで義務がある。これがけっこう金がかかる。食品の成分検査、ラベルなど法律が変わるたびに負担がある」「新規や事業の拡大などでは支援されるが『継承』の場合は、現状維持だからダメとなっている。『継承』のときも使える補助を」「各種交付金は対象品種が特化されていることが多



い。地域で取り組んでいる品種も対象となるよう、品種特化よりも多様化を重視してもらいたい」と訴え、注目されました。また、頸城区のIさんは、「一つひとつの商品を開発し、販路を拡大していくのが難しい。セミナーなど勉強できる場を設けてほしい」と訴えていました。

このほか、ネット販売と口コミの魅力、ハウス園芸における資材費の高騰（倍加）などについても活発な意見交換がされました。

今後は生産加工の現場で、または直売所で、じっくり関係者の意見を聴いて、行政でやるべきことを探りたいと思いました。



【キダチダリア】別名は帝王ダリア。キク科ダリア属の多年草。茎は四角形で節があります。大きいものになると、高さは8メートルにもなるとか。まさに帝王ですね。花は紫に近いピンク色。花言葉は、「乙女の真心」「乙女の純潔」。写真は吉川区下町にて18日撮影。



感動の
広島レポート

広島平和記念式典に派遣された生徒たちのレポートが16日、オーレンプラザの廊下に貼りだされました。

参加者の一人は、人と顔合わせ、思いを伝える大切さも知れ、大変よい経験ができました」と書いていました。

多くの人が読んでほしいですね。

はしづめ法一の活動レポート

No.1935 2019.11.24
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見え方」はこちら

橋爪法一 検索

